

令和3年度 校長より ⑦

9月30日をもって緊急事態宣言が解除されることとなり、県立学校の教育活動については、10月1日から10月24日まで「段階的な緩和の期間」とされましたので、本校では10月1日から全校登校を予定しましたが、台風16号の接近がありましたので、週明けの10月4日から全校登校を開始しました。30℃近い気温の上昇となる日でしたが、生徒は元気よく登校し、これまで通りの学校生活をスタートさせました。部活動の段階的な再開も行われ、日常を取り戻す日となりました。

若年層へのコロナワクチンの接種が進み始めており、副反応による体調不良の欠席連絡もありました。社会の風潮や先々の受験、修学旅行などもありますので、ワクチン接種を急ぎたい気持ちになると思いますが、明らかになっていないこともたくさんありますので、接種をするしないについてはくれぐれも慎重にご判断いただきたいと思います。

10月に入ってからは、多くの3年生が学校推薦型選抜や総合型選抜の大学入試に向けた準備に余念なく取り組んでいました。コロナの影響で、できるだけ早く可否を出したいと思っている保護者の皆さんや生徒たちも多いことと思いますが、そうした流れに乗ることが良いかどうかは難しい所であり、最終的には個人の判断に委ねられていると思います。いずれにしても、第一志望をどこにするのか、第一志望の合格に向けてどのように取り組んでいくかは、担任、保護者、生徒の3者でしっかりと話し合い、納得のいくものにしてほしいと思います。なお、私も受験に向けた生徒の面接のお手伝いをさせていただきましたが、生徒は担任の指導を何度も受けて、入念な準備をしていました。一人でも多くの生徒が、年度内に目標とする大学などの進路先に決定してくれることを祈っています。

10月18日から2学期の中間試験が始まりました。先週までの温かさとは打って変わり、朝方はこのところ一番の寒さとなりましたが、そうした中でも生徒たちは中間試験に向けて元気よく足早に登校していました。9月の時差短縮による学年別授業やオンライン授業、そして10月から行われた50分授業の取組が試されることとなりましたが、結果は自分の責任との自覚を持って、生徒たちは正々堂々と試験を受けていました。

与えられた環境に不満を漏らすことなく取り組む生徒たちの姿は、校長としては大変立派だと感じました。自分のことに対して、人のせいにすることなく自分で責任を取ろうとする姿勢は、これまで周りの大人の姿を観て学んできたのだと思います。保護者の皆様のそうした姿勢に敬意を表するとともに、学校教育を支えていただいている家庭教育への有難味を改めて感じる機会となりました。本校の教職員にもそうしたことを伝えていきたいと思っています。

あと数日で「段階的な緩和の期間」が終了します。このところの県内の罹患者は激減していますので、10月25日からは教育活動への制限も大きく緩和されることと思います。11月には、1年生の鎌倉散策や遠足、2年生の修学旅行が予定されています。大切な思い出となるこれらの行事が、無事に実施されることを心から願っています。

令和3年10月

神奈川県立大船高等学校 校長 幸田 隆